



NPO법인
삼천리철도

NEWS LETTER

三千里

Vol. 19

2012年1月号

発行
NPO法人 三千里鐵道
〒441-0109
愛知県豊橋市下五井町青木31
TEL.0532-53-6999
FAX.0532-54-4931



2012年に望む

平和と統一の 大門を開こう

ふたたび夢を!

皆で見つづける夢は、

やがて現実となる

2012年が明けました。皆さんはどんな初夢を見ましたか？
2000年のあの日、私たちは夢を見ました。すぐにでも朝鮮半島に平和が訪れ、やがて統一の日も近いと、万歳を叫び目うるませました。そして2007年5月17日、万人の希望を乗せた鉄馬が、非武装地帯をつき抜け北から南から走りました。その時、手をのばせば届きそうなところまで夢はその姿を見せはじめたと、誰もが思いました。

しかし夢は、またしても粉々に砕け散りました。天安艦沈没とヨンピョン島砲撃事件は、戦争前夜のような恐怖と緊迫感をもたらしました。

それでも昨年の初頭、「非武装地帯を通過し、一挙に

ユーラシア大陸を走りアフリカ大陸の端まで行った、そんな夢をみました」と、夢を見つづけた男がいました。

夢には計り知れない力が宿ります。夢は見つづけた者にだけ微笑みます。一人でみる夢は、はかなく消えることもあります。だが多くの人と一緒にみる夢、見つづける夢は、必ず現実になります。

皆さん、歴史に記録されるであろう2012年に臨み、紛争のない平和な東北アジア、人と物・情の行き交う朝鮮半島の実現、そして再び鉄馬の歓喜のいなさが非武装地帯に木霊する日を望む2012年にしましょう。平和と統一の大門を開く2012年と、歴史に刻む年にしましょう!



韓国在外選挙
第19代国会議員選挙
(本国投開票日4月11日)

有権者登録は、
2月11日までです。
お急ぎください。



韓国在外選挙民間広報団体 投票2012
事務局長 韓基徳(名古屋総領事館在外選挙管理委員会委員)

『投票2012』発足集会で挨拶をする都相太代表

『韓国在外選挙民間広報団体 投票2012』が結成されました。

2009年2月の公職選挙法改正により、約300万人といわれる在外同胞も国民としての主権を行使できるようになりました。具体的には4月の国会議員選挙と12月の大統領選挙に投票できるようになったのです。

しかし、このような制度ができたことを、まだ多くの同胞は知らないでいますし、また知ってはいても、具体的な手続きについてはわからないというのが現状ではないかとの問題意識から、在日の有志たちが準備を進め、昨年9月25日、『韓国在外選挙民間広報団体投票2012』が名古屋で結成されました。

この集会ののち、関西地域で活動している在日韓国人

本国参政権連絡会議が主催して10月30日に神戸市長田で、11月12日には大阪市生野で、『2012年韓国国政選挙関西連続シンポジウム』が開催されました。

そもそもこの本国参政権は、在日同胞の闘いによって勝ち取られたものです。

1997年8月に兵庫在住の李健雨氏(故人)を中心とする韓国の憲法裁判所に本国参政権を求めて憲法訴願を提出しました。これは1999年2月に棄却されましたが、2004年8月に第二次憲法訴願を提出、2007年6月に勝訴したものです。

(※在日韓国人本国参政権連絡会議は、この闘いをしてこられた方たちが勝訴を受けて結成した団体です。)

第19代国会議員選挙の有権者登録が始まっています。お急ぎください。

在外選挙に参加して投票するためには、まず『有権者登録』をしなければなりません。これは昨年11月13日より始まり、2月11日までとなっています。

まだ済ませていない方は、至急、管轄の領事館に行って済ませなくてはなりません。

このニュースレターと一緒に、投票2012のパンフレット及び『在外選挙人登録申請書』の記入例を同封しました。

それを参考にしてくださいと思います。

なお、申請する際には、有効な旅券と外国人登録書(カード)の原本が必要です。これを持って領事館に行けば、受付でコピーもしてさせていただきます。

また記入する上で、わからないことがあっても、有権者登録の受付職員はとても親切で、きちんとチェックして教えて下さいますから、心配いりません。

投票2012の活動にご協力ください。

投票2012は、この選挙権が、私たちが在日同胞の思いを韓国に直接伝えることができるのと同時に、私たち自身の

アイデンティティ、祖国との関係について深く考える契機になるものと思ひ活動するものです。文字通り民間広報団



体であり、特定の政党や候補者を当選させようとする団体ではありません。

この活動に賛同し、財政的に支援して下さる方を募集しています。

この活動に賛同し、同封したパンフレットを広く配布して下さる方を募集しています。

是非ご連絡ください。 TEL: 0533-78-2242

E-Mail: touhyou2012@gmail.com

国会議員選挙の次は、第18代大統領選挙です。

国会議員選挙の投票日は、在外選挙が3月26日～4月2日(土日可)、韓国の投開票日は4月11日です。投票所に行くときは、写真のある身分証明書を持参してください。

そして、次の第18代大統領選挙は、有権者登録が、7月22日～10月20日、在外投票が12月5日～10日(土日可)、

韓国の投開票日は12月19日です。

韓国の選挙は日本に比べるととてもダイナミックです。これまでの選挙も僅差で決したことが少なくありません。私たち海外同胞の一票が大きく影響するかもしれません。

在日同胞の皆さん、ぜひ投票に参加しましょう!!

「自分も韓国人だと実感する」

国政在外投票へ 選挙人登録開始

在日韓国人ら海外で暮らす韓国人が来年から本國の国政選挙に投票できるようになり、名古屋市中村区の駐名古屋韓国総領事館でも、事前に必要な選挙人登録が始まった。手続きを済ませた人からは「自分も韓国人だと実感する」と感激する声が続出した。

韓国人の在外投票は2009年の法改正で実現し、来年4月の総選挙に向けた登録が今年13日から、東京の大使館など全国の10公館で始まった。有権者は19歳

以上で、選挙人登録は、本人が直接領事館などを訪れる必要がある。このため、在日大韓民国民団で名古屋西支店などを受け持つ新西支部では25日、領事館に足を運び、高い高輪の団員ら約20人を連れ、登録に訪れた。同区は在日1世、下水総さん(81)は、「本國の選挙に投票できるようになり、ずっと会えなかった親が突然目の前に現れたような気分」と感慨深げ。「韓国の政変はあまり知らないけれど、投票までによく勉強しておきたい」と話した。

ただ、初めての在外投票とあって、選挙人登録は

領事館職員のアドバイスを受けながら選挙人登録をする在日韓国人の女性(名古屋市中村区)

だあまり進んでおらず、名古屋領事館での登録は25日現在、二百数人に止まるといふ。同領事館では「在日同胞の団体に説明に出かけたり、韓国料理店にポスターを貼らせてもらうなどしてPRにつとめたい」と話している。(黄敬)

在外選挙についてわからないことがあれば、遠慮なさらず、お問い合わせください。

- ◇有権者登録の仕組みや投票の仕方など、制度にかかること
- ◇有権者登録申請(在外選挙人申請書、国外不在者申告書)の書き方
- ◇ハングル表記 etc.

韓国在外選挙民間広報団体 **投票2012**

〒441-0101 愛知県豊川市宿町佐平山48
 電話/FAX 0533-78-2242
 URL: <http://www.vote2012.jp/>
<http://www.facebook.com/touhyou2012>
 E-Mail: touhyou2012@gmail.com

11/26朝日新聞朝刊 私が呼び掛けて民団新西支部の皆さんと有権者登録に行きました。

連帯 東北アジアの平和

グループ紹介

民族のリズムに魅せられ集う 「ノリパン」

おもな公演 「オグィセナムクッ」97年
「祝祭の大地」03年
「100年の約束・100年の祝祭」11年 ほか多数。

「ノリパン」は朝鮮半島の言葉で「遊びの場」。創立メンバーの李銀子さんが命名した。

85年、日本の学校に子供を通わせる在日コリアン2世の家族が集まった。民族的なものを親子で学んだり体験していこうと、最初は名古屋の本山にアパートを借り料理を作り歌を歌いハングルを学ぶというところから始めた。しかし当時は外国人登録証の指紋押捺拒否運動の真っ最中。ノリパンの指導を引き受けてくれていた女性も拒否をして起訴され、だんだんノリパンから遠のく中で活動もすぐ低迷していった。そんななか李銀子さんの日本人の参加も求めてもっと広がりを持たらどうかとの考えで、日本人も参加するようになり今のノリパンの原型となった。

当時韓国の伝統リズムとパフォーマンスで世界を席卷していた「金徳洙サムルノリ」が87年から始めた長野県でのワークショップにノリパンも参加して、たちまちその虜になり以後サムルノリと農楽を始めるようになっていった。82年から大阪で始まっていた「生野民族文化祭」での農楽、そして磯貝治良さんが主宰する「在日朝鮮人作家を読む会」で京都の「ハンマダン」を招いたときに見た姜



知可子さんと高圭美さんのチャンゴの競演にもすでに魅了されていたのだが。

90年から数年間は李朝憲さん率いる「風物魂振」とともにサムルノリを通して講師を招き「湖南右道」農楽の手ほどきを受けた。95年からはノリパンが主体となり、「金株弘ノルムマチ(놀음마치)サムルノリ」舞踊評論家の陳玉燮(チンオクソプ)氏を招き、毎年5月ワークショップを継続している。

現在参加メンバーは公称25人。韓国朝鮮人、日本人、ダブルなど年齢層も幅広い。チャンゴ、農楽、舞踊、器楽演奏の練習を亀の子のように毎週続けている。

ソウルでの公演、街頭パフォーマンスも行ったり、今池祭りや野宿労働者の支援活動にも毎年参加している。(文責：蔡孝)



書籍紹介

「20年間の水曜日」 —日本軍「慰安婦」ハルモニが叫ぶゆるぎない希望



韓国挺身隊問題協議会の常任代表・尹美香氏の同名著作を、在日の梁澄子が訳した。著者は、日本軍「慰安婦」ハルモニたちのソウル日本大使館前での水曜デモに、1992年当初からかわり一貫して活動してきた。

ハルモニたちの貴重な写真と証言がつけられている。

世界の良心、ことに日本からの良心の支援者らによる強力な支えが、出版を実

現させた。訳者の梁澄子氏は在日からの証言者・宋神道さんの「オレの心は負けない」DVDを手がけた方でもある。最初に紹介いただいた大阪の西村さんも、この支援の輪にいる。

昨年12月14日、1000回目の水曜デモの記録を刻んだ。

発行／東方出版(株) 価格／1,500円

問い合わせ TEL.06-6779-9751

新宿梁山泊豊橋テント公演 —写真で見る舞台裏—

風のように現れ、風のように去った。
多くの思い出と情けを残して

昨年9月のある日、愛知県豊橋市の松葉公園に大型トラックが横付けされた。

編集氏が行ったときには、一杯に詰まった荷物を下ろしていた。翌日の朝に寄ると、テントが姿を現していた。

間もなく都理事長も現れた。自宅2階を総勢22名の劇団員に提供、本人はホテルに泊まったという。

座長の金守珍が全員を集めた。昨日は美味しく食べ、ぐっすり眠れましたと、感謝の言葉を代表して述べた。

あっという間の一週間が過ぎ、送別会は豊川市佐奈川土手脇のグローバル交流館「サラオ」で行われた。

そして翌日早朝、次の公演地に向けて発った。



劇団員の感謝状・寄せ書きを高く掲げる都さん



最後に劇中歌の“トラジ”を合唱し、三千里鐵道万歳!



都理事長自宅での楽しい食事のひと時



三千里鐵道のオモニ・全光子氏と二人の妹、劇団員の母が食事等担当。



韓国の女優チェンヒョンさんと男優ワンスさん



理事長、陣中見舞い。

市民運動から生まれた市長

財団法人ワンコリアフェスティバル
代表理事 鄭 甲寿

アジアのノーベル賞といわれるマグサイサイ賞を受賞するなど、韓国にとどまらずアジアを代表する市民運動のリーダーである朴元淳・韓国希望製作所常任理事がソウル市長になったということは、韓国市民社会の健全さと成熟度をあらためて証明したといえるでしょう。

私と朴元淳ソウル市長とのご縁は、韓国でお会いしたり日本でお会いしたりして、もう10年位になるかと思いますが、とくに昨年は東京で開いたワンコリアフェスティバル主催のシンポジウムにメインパネリストとして参加していただきましたが、同じくメインパネリストであった在日2世の哲学者である竹田青嗣・早稲田大学教授をはじめ会場にいたすべての人々に感銘を与えたものでした。

その時、竹田青嗣教授が指摘されたように、朴元淳氏の運動の特徴は、単に抵抗したり批判するアドボカシーの運動を超えて、市民自ら社会全体のソーシャル・デザインを構想し、その実現に向けて持続的に活動してきたところにあり、実際にも現在の韓国における自治体の首長の40%以上が朴元淳氏の強い影響を受けているということ



です。まさに準備されたソウル市長といえるでしょう。

実は先月、そのシンポジウムの内容をもとに日本と韓国で本を出版することを計画し、その了解とあらためてのお祝いをするために朴元淳ソウル市長に面会してきました。非常に多忙で5分取ってもらうのも大変だと聞いていましたが、30分も時間を取ってくれることになり、こちらが驚いたほどでした。出版も快諾してくれました。

市長室に市民からの要望、意見などが広い壁一面にびっしり貼ってありましたが、直接市民の声を聞こうとしている姿勢は、さすが朴元淳氏らしいと思ったものでした。写真は、その壁の前で撮らせていただいたものです。

康宗憲氏、再審裁判がはじまる



1970年代“在日同胞留学生スパイ団事件”で死刑宣告を受け、13年間服役した康宗憲氏に対する再審決定が下された。

一昨年12月に再審請求、昨年10月にソウル高等法院が再審を受け入れた。

康宗憲氏はソウル大医大留学時の1975年11月、国軍保安司令部捜査官に逮捕、在日韓国人16人が起訴された大型スパイ団事件の主謀者として、国家保安法違反疑惑などで死刑判決を受けた。以後1988年特赦で減刑、13年間服役を終えて出所した。

これに対し、昨年“真実和解のための過去の歴史整理委員会”(略称“真実和解委”)は、康氏などに対して令状なしに拘束・拷問した不法捜査があったと認定、拷問による虚偽自白に基づいて事件自体をねつ造した可能性が高いと結論を下した。

今回の再審決定に康氏は、“この日を待っていた”、“やっと(名誉回復の)スタート地点に立った”と心境を明らかにした。康氏は編集部にも“紆余曲折はあっても韓国民主化が着実に前進していることの証、祖国の分断克服への在日の想いを年初から始まる再審裁判法廷で明らかにし、必ず「無罪」を勝ち取る”と誠実に応じてくれた。

ようこそ豊橋へ

私が初めて画伯の絵に接したのは、NPO法人三千里鐵道の発行した夢切符からです。切符には、躍動感溢れる仮面舞が描かれていました。その後ある在日同胞の結婚式で同じテーブルに隣り合わせた際、民族衣装姿の私の妻を即席でデッサンしていただいたことがありました。すっかり画伯のファンになり敬愛の念を抱いてきましたが、今回88歳を迎える画伯が豊橋で大回顧展を開催することになり、大いに期待しました歓迎しております。

この東三河地区には戦前から多くの在日同胞が暮らしてきました。戦後の混乱期、復興、高度成長期も、この地の市民と共に苦難を乗り越え、共に今日を切り拓いてきました。亡国と分断の十字架を背負いながらも志を貫かれた画伯の絵画群は、この地に足跡を残した在日一世とその子孫たちへの鎮魂、応援歌となるでしょう。そしてこの地で共に生きた豊橋市民への感謝

の心と、生きる勇気、希望を感じとって頂けるものと信じてやみません。

在日ばかりでなく、やがて世界に誇れるであろう老画伯の米寿を迎える渾身の大回顧展が、私の生まれ育ったこの地から発信できることを誇り、皆様と共に喜びたいと思います。



画伯を自宅に招き

e s s a y

エッセイ

三千里鐵道! 呉炳学

2006年9月、ソウル市仁寺洞での個展に寄せたエッセイだ。当時の画伯の心情が最初の文章にほとぼしる。

それは、われわれの渴望して止まない祖国統一の夢が、まさに眼の前に見えるような胸の熱くなる風景ではないか。

1942年の暮、私はピョンヤンに近いふるさとの片田舎から、画家になりたい一心で、徒手空拳のまま、東京に向かって京義線の列車に乗り込んだ。その時、私は三十八度線と現在の非武装地帯を越えていたのだ。

東京での貧乏画学生の生活は、ごたぶんにもれず新聞配達をはじめ、地下鉄の夜間交換手など、雑多なアルバイト(苦学)を続けながら創作に熱中する毎日であった。

私の夢は、在日の画家仲間とともに、母国に美術のルネッサンスを築くことである。

コリアンの体内には、東アジアの中でも特別な、魅力的なリズム(古くは高麗・李朝の焼き物、近くは音楽やスポーツの世界)が流れていて、中国、日本などの隣人たちとは、明らかに違う芸術性に溢れたものだ。

これは、広大なユーラシア大陸を駆け抜けながら、われわれの祖先が守り通した貴重な遺伝子であり、プライドに

満ちた民族の財産である。

私はこの豊穡な民族の伝統と資質をベースに、ヨーロッパの油絵を導入して、現代の美術を構築する夢を見続けている。

ありがたいことに、最近熱心な友人の手で、私の50年来の作品群を網羅した個展が開かれ、あわせて260ページに余る本格的な画集ができた。

微力な一画家にとってはまことに望外の幸せであり、感謝の言葉もない。

私の最後の夢は、ピョンヤンとソウルで、念願の個展を持ち、母国の同胞たちと喜びを分かち合う感激の瞬間である。

そして二都を結ぶ、新装なった「三千里鐵道」に乗って、往復できる日が実現したら!

もうこれ以上、何を言うことがあろうか。



昨年の都相太随想集出版記念パーティーで祝辞を述べる呉炳学画伯

「仮面舞」、豊橋市で初公開！ 生涯をかけた大作



最後の仕上げに臨む画伯。筆先と眼差しに気迫がみなぎる。 撮影一堀正雄

今回の大回顧展では、静物・人物・風景などの油絵80点あまりと、画伯の生涯をかけた大作「仮面舞」が初公開される。

これまで画伯は多くの仮面舞を描かれた。どの仮面舞からもその色彩のみならず、民族のリズム、庶民の息づかいや生活音まで聞こえてくるような臨場感が感じられる。

「今回の大作はいつ頃から創作を決意され、大回顧展に賭ける想いは?」との質問に、画伯は80歳を迎える年に決意し、8年の歳月をかけ描きあげたと話された。そして「仮面舞」にかける想いについて

「仮面の下に息づく民衆の喜びと怒り、願望と未来への希望を描きたかった。その昔東北アジアの平

原を駆け抜けたコリアンの雄姿、どのような苦難にも消えることなく今も受け継がれている民族の魂を込めたかった。」と、淀みなく応えられた。

セザンヌを志し日本に来た少年は、今年88歳の米寿を迎える。異国の地で亡国と分断を目の当たりにしながら画伯は、西洋の油絵に誰も真似ることの出来ない孤高の世界を創り上げた。そこに私たちは、民衆の魂とエネルギーへの透徹した信念を見る。

編集部は、三千里鐵道運動発祥の地・東三河から、呉炳学の世界を日本と朝鮮半島の南北、そしてすべての画の愛好家と市民に向けて発信できることを、皆様と共に喜びたい。

心よりご来場をお待ち申し上げます。

孤 高 の 色 彩 燃 え る 画 魂

呉炳学 88歳 大回顧展

OH・BIONGHAK

2012年 2月7日(火) 〰 2月12日(日) 9:00-17:00 (最終日16:00まで)

開会式 2月7日(火) 11:00より ギャラリートーク 2月11日(土) 13:30より 入場無料

画家自身による作品ガイド 2月12日(日) 随時

会 場●豊橋市美術博物館 1階第3展示室

主 催●呉炳学大回顧展実行委員会 協 賛●夢コーポレーション株式会社